

科目コード	51941	授業科目	実践島嶼保健看護特論 I Practical Island Health Nursing Theory I		担当教員	○神里みどり 川崎道子、他 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	実践島嶼保健看護のプログラムの目的と概要を理解した上で、県内外の島嶼地域における医療・保健看護の現状、「実践島嶼保健看護専門看護師」の必要性とその役割、実践島嶼保健看護の重要概念および実践島嶼保健看護師のコンピテンシーとその教育について学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践島嶼保健看護の養成目的を我が国の医療の現状を踏まえて説明できる。 2. プライマリー・ヘルス・ケアとプライマリー・ケアの概念を説明できる。 3. 実践島嶼保健看護専門看護師の定義と必要性を説明できる。 4. 我が国ならびに沖縄県の島嶼地域における医療の現状を説明できる。 5. 沖縄県の島嶼地域における保健看護の現状と特徴を討議によって理解できる。 6. 島嶼保健看護に係わる重要概念を列挙でき、それぞれについて具体的に説明できる。 7. 実践島嶼保健看護専門看護師に必要なコンピテンシーと教育について説明できる。 						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1・2回	オリエンテーション 島嶼性と島嶼保健看護 ルーラルとリモート看護					神里みどり 川崎道子	
第3・4回	高度実践看護師制度の変遷と現状 1) 高度実践看護師に必要な実践能力(コンピテンシー)と役割、教育						
第5・6回	2) 高度実践看護師に必要なリーダーシップ、ディスカッション プライマリー・ヘルス・ケアとプライマリー・ケア						
第7・8回	チームアプローチ(連携と協働)の理論、専門連携教育 チームアプローチ(連携と協働)の実践とディスカッション						
第9・10回	我が国と沖縄県の島嶼地域における医療の現状						
第11・12回	沖縄県の島嶼地域における保健看護の特徴 1) 特定離島の実践例(診療所看護師/しまナース/保健師) 2) ディスカッション						
第13・14回	島嶼保健看護と文化的視座(学生による文化看護に関するインタビューなど)						
第15回	まとめ						
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	事前準備・プレゼンテーション・ディスカッション・レポート等を総合的に査定し、到達目標の達成度を評価する。						
備考	事前に課題及び課題図書等を指示する。非常勤講師の都合で授業計画が変更する場合もあるので、十分注意して下さい。						

科目コード	51942	授業科目	実践島嶼保健看護特論Ⅱ Practical Island Health Nursing Theory II		担当教員	○未定 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修		時間数	30時間				
授業概要	プライマリ・ヘルス・ケア領域において、あらゆるライフスパンを通して、一般的によく見られる症状について、その症状のメカニズムを踏まえた上で、臨床推論や鑑別判断、ならびに臨床検査や臨床判断の手法を学習し、症状マネジメントのための薬物及び非薬物療法に関する知識と高度実践看護及び技術について修得する。						
到達目標	1. 島嶼地域でよく起こる症状の臨床判断、検査、治療(薬物・非薬物療法)について説明できる。 2. 島嶼地域でよく起こる急性疾患への初期対応や、比較的軽い症状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対して、看護学の視点から包括的アセスメントを行い、症状マネジメントの方略について説明できる。						
回数	授業内容及び計画						担当者名
第1～3回	オリエンテーション 1. 島嶼地域におけるコモンディジーズの症状アセスメントとそのマネジメントに関するケーススタディ 発熱、咳・喘鳴、発疹						未定
第4～6回	痛み:頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、関節痛						
第7～9回	呼吸困難、動悸、めまい、しびれ、倦怠感、不眠、不安感						
第10・12回	出血:吐血、下血、血尿、						
第13回	悪心・嘔吐、下痢、便秘						
第14・15回	2.まとめ:実践事例の展開(学生の発表・検討)						未定
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・コモンディジーズ ブック 日常外来での鑑別と患者への説明のために、一般社団法人日本内科学会 専門医部会 ・新・総合診療医学、家庭医療学編、書林 ・新・総合診療医学 病院総合診療医学編、書林 ・提言ー日本のコモンディジーズ、consortium vol.3 ・プライマリー・ケアの現場で役立つ一発診断 100 一目で見ぬく診断の手がかり、文光堂 ・新家庭医 プライマリー・ケア医入門、日本家庭医療学会 編別途指示する 						
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき総合的に評価する。						
備考	ICTなどの遠隔通信の活用など 担当教員が変更になる場合がある。						

科目コード	51943	授業科目	実践島嶼保健看護特論 III Practical Island Health Nursing Theory III		担当教員	○大川嶺子、他 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	基礎科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	プライマリ・ヘルス・ケア領域において、あらゆるライフスパンを通して、一般的によく見られる疾病に対する臨床推論や鑑別判断、ならびに臨床検査や臨床判断の手法を学習し、疾病の治療のための薬物及び非薬物療法に関する知識と高度実践看護及び技術について修得する。						
到達目標	1. 島嶼地域であらゆるライフスパンを通してよく起こる疾病の臨床判断、検査、治療について説明できる。 2. 島嶼地域でよく起こる急性疾患への初期対応や、比較的軽い症状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対して、看護学の視点から包括的アセスメントを行い、疾病予防や疾病管理のための方略を説明できる。						
回数	授業内容及び計画						担当者名
第1・2回	オリエンテーション 1. 島嶼地域の急性状況の緊急時対応、診断、検査、治療： ケーススタディ かぜ症候群(急性気道感染症)、感染性胃腸炎 損傷(窒息、血管損傷、頭部外傷、くも膜下出血、腹部、四肢/骨盤)						大川嶺子
第3・4回	咬傷、アナフィラキシー、中毒、精神急性症状、糞線虫、レプトスピラ症						未定
第5・6回	2. 島嶼地域の慢性疾患の予防から早期発見、診断、検査、治療： :ケーススタディ 糖尿病、高血圧症、狭心症、脳梗塞、慢性腎臓病						未定
第7・8回	COPD、気管支喘息、熱中症、貧血						未定
第9・10回	パーキンソン症、認知症						未定
第11回	関節症、骨訴訟症						未定
第12・13回	胃がん、肺がん、肝硬変						未定
第14回	統合失調症、うつ、アルコール性精神疾患						未定
第15回	まとめ:離島・へき地における日常の疾病管理の課題 (学生の発表・討論)						未定
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	『提言-日本のコモンディジーズ』尾島医学教育研究所(2013)他						
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。						
備考	ICTなどの遠隔通信の活用など 担当教員が変更になる場合がある。						

科目 コード	51944	授業 科目	実践島嶼保健看護特論Ⅳ Practical Island Health Nursing Theory IV		担当 教員	○永島すえみ、他	
開講年次	博士前期課程 2年次	単位数	3単位	科目 分類	専門科目・講義	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	45時間				
授業概要	島嶼地域における周産期の保健問題、および保健看護に関する知識を学習する。また、乳幼児、および発達障がいをも有する子どもとその家族への支援、子どもに一般的にみられる症状と看護ケア、子どもの健康増進に関する理論、環境整備、村保健事業の施策化などの計画を多職種と連携して実施する方策を学び、島嶼保健看護における Common disease に関する看護実践の技術を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島嶼地域における周産期・小児期にある人とその家族の特徴について理解し、説明できる。 2. 島嶼地域における周産期・小児期にある人の健康問題を解決するために必要な知識・技術について説明できる。 3. 小児の発達、障がいに関する諸理論を学習する。 4. 島嶼地域において子どもによくみられる疾病の症状とその対処法、看護援助について説明できる。 5. 島嶼地域での小児の疾病予防、健康増進のための活動、育児支援の状況について説明できる。 6. 島嶼地域全体での子育て環境の整備に関する行動計画や保健事業施策について説明できる。 7. 多職種間の連携による育児支援、発達支援、健康増進、疾病予防活動について説明できる。 						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1回	オリエンテーション 正常な妊娠経過のアセスメントと保健指導					永島	
第2回	1. 妊娠の正常経過と妊娠各期の特徴 2. 妊娠期のアセスメントと保健指導						
	妊娠中によくみられる異常の見分け方と対処 1. 妊娠悪阻・流産・早産 2. 妊娠高血圧症候群(PIH)・HELP 症候群・子癇前症・常位胎盤早期剥離・前置胎盤など						
第3回	母子の健康への支援制度 1. 母子保健・医療・福祉施策の変遷 2. 少子化・子育て支援に関する保健・医療・福祉施策						
第4回	家族計画(若年妊娠・エイズ・DV)						
第5回	分娩の正常経過とアセスメント 1. 分娩開始徴候、破水、分娩進行の見方 2. 分娩の異常:陣痛・産道の異常、胎位の異常、胎児機能不全						
第6回	産褥期の正常経過と保健指導、母乳育児支援						
第7回	母子看護と倫理 1. 不妊治療と倫理的課題 2. 出生前診断・中絶にともなう倫理的課題						
第8回・9回	子どもの発達に関する諸理論と成長・発達の評価法 1. 愛着理論、認知発達理論、子どもの気質に関する理論など 2. DENVER II、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法など						
第10回	子どもと家族の最善の利益を守る看護(こどもの権利と擁護) ・子どもの意志決定(子どもとインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント)						
第11回	島嶼における小児期によくみられる病気の季節的流行パターン、症状とその対処法						
第12・13回	特殊なニーズをもつ子どもと家族への支援(痛みの評価、重症心身障害児の重症度・大島分類、we-FIM 等)						
第14回	長期療養が必要な子どもと家族への支援(在宅療養、利用できる社会資源)						

第 15 回	家族看護理論と保健看護への応用(家族システム理論・家族発達理論等) 児童虐待とその対応・施策	
第 16 回	島嶼地域での疾病予防活動: 予防接種の管理・実施、乳幼児の健康管理(健康診査の実施とフォロー)と診療所と村役場、関係者、住民の連携	
第 17 回	障がいをもつ子どもと養育者への地域での支援: 発達支援、養育者への心理的サポート、保育士・幼稚園教諭・養護教諭との連携による支援、島内外の支援体制構築	
第 18 回	住民参加型子育て環境整備: 次世代育成支援行動計画策定、要保護児童対策協議会および村保健事業	
第 19-21 回	事例のプレゼンテーション(発表と討議) ・沖縄県における子どもと家族が直面している保健・医療・福祉・教育上の課題	
第 22 回	まとめ: 母子保健施策、社会資源、および衛生統計、資料などの整理	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	1) 井上裕美・他監修 病気がみえる MEDIC MEDIA 2) 上田礼子(2013) 生涯人間発達学 三輪書店 3) 荒賀直子・後閑容子ら編集(2013): 公衆衛生看護学.JP 第 3 版,インターメディカル. 4) 井伊久美子ら(2013):保健師業務要覧 第 3 版,日本看護協会出版会. 5) 五十嵐隆監訳(2008): 一目でわかる小児科学 第2版,メディカル・サイエンス・インターナショナル. 6) W.K.Frankenburg,M.D.(1990/2005). 社団法人日本小児保健協会標準化,DENVER II -デンバー発達判定法-,日本小児医事出版社 7) 遠城寺児宗徳他.(2012).遠城寺式 乳幼児分析的発達検査法,九州大学小児科改訂新装版,慶應義塾大学出版会	

科目コード	51945	授業科目	実践島嶼保健看護特論V Practical Island Health Nursing Theory V			担当教員	○神里みどり、他	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	島嶼地域で生活している成人期にある人とその家族の特徴を理解し、成人期の健康問題を解決するための高度な看護実践の方略について学習する。							
到達目標	1. 島嶼地域で生活する成人期にある人とその家族の特徴について説明できる。 2. 島嶼地域における成人期に生じる一般的な健康問題について説明できる 3. 島嶼地域における成人期の健康課題を解決するための高度な看護実践について説明できる。 4. 成人の健康推進、生活習慣病の発症予防及び重症化予防について説明できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	島嶼地域で生活する成人期の特徴と健康問題(急性期から終末期まで)						神里みどり	
第2・3回	成人期における健康問題を解決するために必要な主なる看護理論 (危機理論、病みの軌跡、健康の全体性理論など)							
第4回	島嶼地域での健康推進、生活習慣病の予防対策と保健指導							
第5回	島嶼地域における成人女性の健康問題と健康支援対策 1) 性感染と避妊教育 2) 婦人科疾患 3) 更年期							
第9～11回	島嶼地域における成人期の健康課題を持つ人・家族に対するアセスメントと看護援助 1) 急性疾患:心疾患、脳血管疾患、ショック・外傷時のケーススタディ 2) 慢性疾患:高血圧、糖尿病、COPD、腎・肝疾患のケーススタディ 3) がん:肺がん、大腸がん、成人 T 細胞白血病、乳がん、子宮がんのケーススタディ							
第12・13回	緩和ケアと終末期における患者・家族・遺族に対するサポートシステム							
第14回	島嶼における成人期特有の健康問題を抱えた患者・家族に対する多職種連携 急性期(救急含む)、慢性期、終末期におけるケーススタディ							
第15回	まとめ:島嶼における成人の健康課題とその解決技法に関するプレゼンテーション							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備考	ICTなどの遠隔通信の活用など							

科目コード	51946	授業科目	実践島嶼保健看護特論VI Practical Islands Health Nursing Theory VI		担当教員	○田場由紀、他			
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義		
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間						
授業概要	島嶼で生活している高齢者とその家族の特徴を理解し、老年期の健康問題を解決するための高度な看護実践の方略について学習する。								
到達目標	1. 島嶼で生活する高齢者とその家族の特徴と健康問題について説明できる。 2. 高齢者のコモンディジーズに対する看護援助について説明できる。 3. 島嶼での高齢者の健康増進と重症化予防について説明できる。 4. 高齢者の生活ニーズにそったアセスメントとその看護実践について説明できる。 5. 島嶼における高齢者とその家族を支えるサポートシステムについて説明できる。 6. 島嶼で生活する高齢者とその家族の健康課題を解決するための看護実践(プライマリ・ヘルス・ケア)について説明できる。								
回数	授業内容及び計画					担当者名			
第1回 第2回	1. 島嶼で生活する高齢者の特徴と健康問題 2. 老年看護で用いられる主な理論・モデル(セルフケア、ストレングス等)					田場由紀			
第3～8回	3. 高齢者のコモンディジーズに対する看護援助 1) 老化と老年症候群 2) 骨・関節系 3) 皮膚・感覚器系 4) 認知症 5) 創傷管理 6) 高齢者の内服管理								
第9回 第10回	4. 地域での高齢者の健康増進と重症化予防 1) 島民主体の村高齢者保健福祉計画策定支援及び村保健事業施策化 2) 後期高齢者健康診査の受診勧奨と保健指導								
第11回 第12回	5. 高齢者の生活ニーズにそったアセスメントとその看護実践 1) 高齢者の捉え方(健康の連続性、ICF、ニーズ論) 2) 生活ニーズに沿ったアセスメントとその看護実践例								
第13回 第14回	6. 島嶼における高齢者と家族のサポートシステム 7. 在宅における高齢者ケア								
第15回	8. まとめ:島嶼における高齢者の課題に関するプレゼンテーション								
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。								
参考文献	別途指示する 第6回:公衆衛生看護学.JP, 保健師業務要覧								
成績評価の方法	プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。								
備考	ICTなどの遠隔通信の活用など								

科目コード	51947	授業科目	実践島嶼保健看護特論Ⅶ Practical Island Health Nursing Theory Ⅶ		担当教員	○ 藤野裕子、他		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・講義	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	精神的健康問題を持ちながら島嶼で暮らす個人とその家族の理解と、その問題解決方法について学習する。また、地域を基盤とした精神保健看護活動について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島嶼における地域精神保健の特徴と課題を理解できる。 2. 島嶼に暮らす人々の精神的健康問題の早期発見・早期治療について理解できる。 3. 精神的健康問題をもつ対象のアセスメントと看護について理解できる。 4. 精神的健康問題解決のための個人と家族へのアプローチ方法を理解できる。 5. 精神障害者が島嶼地域において継続的に保健・医療サービスを楽しむ方法を理解できる。 6. 精神的健康問題をもつ対象に対する島内外の関係者との連携のあり方を理解できる。 7. 感染症予防対策と発生時の対応及び被災時の対応について理解できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1-2回	1. 精神的健康・不健康の捉え方／メンタルヘルス 精神保健の第1次予防・第2次予防・第3次予防						藤野 裕子	
第3回	2. 精神看護で用いられる主な理論・リカバリー概念							
第4回	3. 地域精神保健活動と離島支援体制(診療所と関連医療機関の連携)							
第5回	4. 通院・入院医療、訪問看護、地域生活支援							
第6-8回	5. 被災時のメンタルヘルスへの対応							
第9-10回	6-8. 代表的な精神的健康問題の生活および身体的健康へ及ぼす影響と対応 躁うつ病、統合失調症、アルコール依存症者のアセスメント							
第11回	9-10. 精神科治療の特徴と精神科医療体制 薬物療法、精神療法、服薬継続支援、危機介入、心理教育、SST等							
第12回	11. 地域精神保健の課題と精神保健活動(個別支援、集団支援、グループ支援)及び 職場・学校・行政の連携							
第13回	12. 身体・知的・精神の障がい者への支援: 障がい者基本計画策定及び障害者総合支援法等に基づく支援							
第14-15回	13. 地域での災害(台風・津波・地震等)対策と発生時の対応 地域での感染症対策と発生時の対応							
	14-15. 発表と討議							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 武井麻子ら(2013):精神看護の基礎 精神看護学①,医学書院. 2) 武井麻子ら(2013):精神看護の展開 精神看護学②,医学書院. 3) 中井久夫・山口直彦(2004): 看護のための精神医学 第2版,医学書院. 4) 荒賀直子・後閑容子(2015): 公衆衛生看護学.JP 第4版,インターメディカル. 							
成績評価の方法	授業での参加度、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師免許を有しない学生は、参考文献4)を用いて事前学習し授業に参加する ・本学またはサテライト教室等において、ICTを活用して行う 							

科目 コード	51948	授業 科目	実践島嶼保健看護演習 I Practical Island Health Nursing Seminar I		担当 教員	○川崎道子、他 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間				
授業概要	島嶼地域における保健・医療・福祉に関する概要を把握し、島嶼住民の健康課題の現状と課題を見出すことができる包括的なアセスメント能力を修得する。さらに、日常・非日常で起こる健康問題に関して、エビデンス・ベースド・プラクティス(EBP)の概念に基づき、高度な看護実践や多職種との調整・連携活動が実践できる能力を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模離島の保健・医療・福祉の概要を説明できる。 2. 島嶼住民の健康課題を見出すための疫学的データ収集・分析し、包括的な課題をみいだす。 3. 島嶼地域での臨床推論を活用した危機管理、災害時の初期対応や救急ができる。 4. 島嶼地域の健康問題について、EBPの概念に基づいた高度な看護実践と多職種との調整・連携活動について説明できる。 5. 島嶼地域で必要な固有の保健看護活動が説明できる。 						
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名
第1～6回	<ol style="list-style-type: none"> 1 小規模離島村を1箇所選択し、地域のアセスメントモデルに基づき保健・医療・福祉の既存資料を小児、成人、高齢者の視点で収集する。 2 小規模離島村の疫学データ（人口動態統計、人口静態統計など）の収集、分析方法、解釈及び図表の作成を行う。 						川崎道子
第7～10回	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1～6回で概要を把握した小規模離島村の訪問計画を立案する。 2 当該地域の地区踏査（フィールドワーク）を実施する。 3 2)にて既存資料の照合及びデータを追加し当該地域の特性及び課題を小児、成人、高齢者のライフステージで整理し、地域全体の包括的な課題を把握する。包括的な島嶼のアセスメントを行うことで、マンパワーの少ないなかでの住民を含めたケア調整・協働連携体制のあり方を考察する。 						
第11～15回	<p>島嶼地域での臨床推論を活用した初期救急対応技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 トリアージと多職種との連携（ケーススタディを活用したシミュレーション） <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急外来トリアージ 2) 災害看護におけるトリアージ、BLS/ACLS、 3) ヘリ搬送対応時における医師・看護師・保健師・役場職員・住民を想定した協働連携、親病院との連携など（シミュレーション） <p>ケーススタディ例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小児喘息（重責発作） ② 溺水 ③ 外傷 ④ 心筋梗塞や脳梗塞患者の搬送 ⑤ 高齢者の大腿骨骨折 ⑥ 台風時などの虚弱者に対する対応（高齢者・障がい者等） 						
第16・17回	<ol style="list-style-type: none"> 2 助産演習（学内） <ol style="list-style-type: none"> 1) 児娩出介助、出生直後の児のケア 2) 分娩直後の母体のアセスメントとケア 3) ケーススタディ：島嶼地域における母子保健の課題 例：若年妊娠、妊娠高血圧症、妊婦健診未受診によるヘリ搬送事例等 						

第 18～20 回	EBP に基づいた島嶼地域における保健看護活動における健康教育	
第 21～26 回	EBP に基づいた島嶼地域における診療所看護活動における健康課題に関する方略や疾病予防に関する健康教育 典型的な事例を提示し、臨床推論に基づく包括的なアセスメント、EBP に基づいた看護実践（予防、治療、ケア）、多職種との協働（住民含む）等を想定した看護援助や健康教育の方略 小児から成人、高齢者の事例を基に展開する。	
第 27・28 回	島嶼における倫理的な課題と倫理的意思決定支援の方略	
第 29・30 回	島嶼地域の多様な健康問題のある事例を EBP に基づいた看護実践と多職種との連携・調整を踏まえた解決策及び評価の事例の報告とまとめ	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<p>沖縄県企画部地域・離島課. (2015). 離島関係資料</p> <p>沖縄県企画部統計課. (2015). 沖縄県統計年鑑</p> <p>沖縄県企画部統計課. (2015). 沖縄の統計</p> <p>大滝純司監訳. (2015). マイナーエマージェンシー（原著第 3 版） エルゼビア・ジャパン株式会社</p> <p>徳田安春. (2012). 新・総合診療医学 病院総合診療医学編 株式会社カイ書林</p> <p>藤沼康樹. (2012). 新・総合診療医学 家庭医療学編 株式会社カイ書林</p> <p>前野哲博・松村真司. (2012). 帰してはいけない外来患者 株式会社医学書院 等</p>	
成績評価の方法	演習内容毎の参加状況やレポート80点、総合テスト20点	
備考	シミュレーターや ICT などの遠隔通信機器の利用、ロールプレイの活用 担当教員が変更になる場合がある。	

科目 コード	51949	授業 科目	実践島嶼保健看護演習Ⅱ Practical Island Health Nursing Seminar Ⅱ			担当 教員	○未定、他 非常勤講師		
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目	授業 形態	演習		
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間						
授業概要	プライマリ・ヘルス・ケア領域において求められるエビデンス・ベースド・プラクティス(EBP)に基づく高度な看護実践や看護技術を修得する。								
到達目標	1. 島嶼における慢性疾患のアセスメント、治療・処置、服薬指導・管理、看護援助が実施できる。 2. 島嶼に必要な遠隔医療システムの活用ができる。 3. 小規模離島の保健・医療・看護の課題解決に必要な計画立案ができる。								
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名		
第1～4回	1. EBPに基づいた生活習慣病予防や健康教育ならびに療養支援 糖尿病・高血圧疾患外来指導の実際 糖尿病患者1事例 高血圧疾患患者1事例 EBPに基づいたプロトコルの作成 血糖コントロールのためのインスリンの投与量の調整						未定		
第5～7回	創傷ケアの実際：在宅における褥瘡予防ケアの実際 WOC 外来：ストマケア(1事例) EBPに基づいたプロトコルの作成 エビデンスに基づく褥瘡関連のスキンケア技術 スキンケア(皮膚裂傷)を防ぐ技術								
第8～12回	呼吸管理の実際： ①在宅における酸素療法 ②小児喘息の外来指導の実際 EBPに基づいたプロトコルの作成 呼吸状態に応じた酸素投与量と薬剤調整の技術(人工呼吸器含む) 呼吸管理についてのコンサルテーション技術								
第13～16回	服薬管理 ①親病院における診療所の薬剤管理と小離島診療所の薬剤管理の実際 ②EBPに基づいた服薬指導の実際 精神薬関連の状態変化(臨時の場合)の薬剤調整の技術 輸液療法の技術								
第17・18回	小離島での事例を通したプライマリ・ヘルス・ケアの実際：これまでの演習で学んだことを活用して、実際の事例にてEBPに基づいた看護援助を報告する。								
第19・20回	プライマリ・ヘルス・ケアにおいて求められる医療技術提供のための関連法規と事例検討：ゲストスピーカー 変死、自殺等への対応方略								
第21・22回	リハビリテーション：栄養摂取/嚥下障害、運動機能保持増進：EBPとケーススタディ								

	イ 高齢者の骨折予防のための運動機能向上のための技術 肺炎予防のための口腔ケアの技術	
第 23・24 回	抗がん剤治療と副作用症状の緩和：EBP とケーススタディ インフュージョン・リアクションや副作用症状等のマネジメント技術 抗がん剤等の血管外漏出時のステロイド剤の薬剤投与技術	
第 25・26 回	緩和ケアと終末期医療の対応：EBP とケーススタディ 麻薬等の鎮痛剤薬剤調整とマッサージ等などの非薬理的療法技術	
第 27・28 回	2. 小規模離島の保健・医療・看護の課題解決の検討 コンサルテーション技術 ・遠隔システムの活用・情報処理・ネットワーク・多職種連携 Web システムを活用した専門職間のコンサルテーション技術	
第 29・30 回	小規模離島におけるプライマリ・ヘルス・ケアに関する課題解決のためのプロジェクト案の検討	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	大滝純司監訳. (2015). マイナーエマージェンシー (原著第 3 版) エルゼビア・ジャパン株式会社 徳田安春. (2012). 新・総合診療医学 病院総合診療医学編 株式会社カイ書林 藤沼康樹. (2012). 新・総合診療医学 家庭医療学編 株式会社カイ書林 前野哲博・松村真司. (2012). 帰してはいけない外来患者 株式会社医学書院等別途指示する	
成績評価の方法	演習内容毎の参加状況やレポート70点、総合テスト30点	
備考	シミュレーターや ICT などの遠隔通信機器の利用、ロールプレイの活用 担当教員が変更になる場合がある。	

科目 コード	51952	授業 科目	実践島嶼保健看護実習 I Practical Island Health Nursing Practicum I			担当 教員	○牧内忍、他	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択 必修	必修	時間数	90時間					
授業 概要	小規模離島の保健医療福祉の全体像を把握し、小規模離島で活躍する島嶼保健看護師の役割とその特徴を学ぶ。小規模離島に在住する住民の保健看護上の課題を導き出し、課題解決に向けて、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした島嶼保健看護の特徴を活かした高度な看護援助を実践する。							
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模離島における保健医療福祉の現状と課題の全体像を述べることができる。 2. 小規模離島におけるコモディージェズを基盤としたあらゆる健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者へのプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした島嶼保健看護師の役割を把握し、その特徴について述べるができる。 3. 小規模離島における様々な健康レベルにある小児から高齢者を対象にプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした、島嶼看護職の役割(連携・調整・相談含む)とその特徴を活かした看護援助が実践できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
	<p>プライマリ・ヘルス・ケア実習</p> <p>〈事前準備〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が県内の39の小規模離島のなかから、1離島を実習場として選択する。 2. 事前準備として、小規模離島の保健医療福祉の行政等のデータ、先行研究を通して、フィールドの地域概要や保健医療福祉の現状について把握する。 3. フィールドの地域行事、保健医療福祉の事業計画等を把握する。 4. 実習前に1回(可能ならば地域行事に合わせて)、フィールドに出向き、地区踏査を行う。また、診療所の看護師、保健センターの保健師と調整する。 5. 行政等のデータやフィールドにおける情報を踏まえ、実習計画を作成する。 <p>〈実習内容〉</p> <p>小規模離島における診療所看護師と保健師の役割全体を概観し、マンパワー少ないなかでのプライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護実践を行う。ここでいう小規模離島の診療所とは、医師・看護師1名で医療を提供している場で、かつ、保健師1名あるいは保健師不在の小規模離島の場合を実習場とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療所や地域で展開されるコモディージェズを基盤とした様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者への看護援助を実習指導者(診療所看護師、地区担当保健師)のもとで実践する(診療所での外来、訪問診療、住民健診、救急搬送等)。 2. 診療所看護師や地区担当保健師の助言のもと、住民への看護援助を行う。 3. 看護援助として、診療所や在宅の場などで、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画、実践、評価を行う。 必ず様々な健康レベルを対象にした、小児・成人・高齢者の事例を1事例以上選択し、看護実践を展開する。対象者の健康レベルに応じて、医師・保健師・福祉関係者・住民との調整(倫理調整含む)や協働連携(相談含む)のあり方について、島嶼性を意識した看護職の役割や特徴について学修する。 4. 実習記録として「行動計画」を作成し、実習した内容については「日々の実習記録」で整理する。本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を 						学内教員 学外実習指導者(看護師、保健師、医師等)	

	<p>提出する。</p> <p>(5)カンファレンスを開催し助言を得る。</p> <p>①実習カンファレンス: 診療所看護師、診療所医師、保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス</p> <p>②全体カンファレンス: 中間カンファレンス(大学内の各領域の教員) 最終カンファレンス(看護部長、島ナース、施設の実習指導者など)</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。	
備考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。	

下記は実習施設と実習指導者のリスト:学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種(氏名)
① 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属栗国診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
② 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属渡名喜診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
③ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 附属南大東診療所	診療所長 副院長兼看護部長 島ナース
④ 沖縄県立宮古病院附属多良間診療所	病院長 診療所長 副院長兼看護部長 看護師長(下地千里)
⑤ 沖縄県立八重山病院附属小浜診療所	病院長 副院長兼看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑥ 公立久米島病院	看護部長
⑦ 栗国村役場	沖縄県保健医療政策課保健師
⑧ 多良間村役場	保健師
⑨ 竹富町役場	竹富町保健師
⑩ 久米島町役場	沖縄県保健医療政策課保健師
⑪ 南大東村役場	保健師

科目 コード	51953	授業 科目	実践島嶼保健看護実習Ⅱ Practical Island Health Nursing Practicum II			担当 教員	○宮里智子、他	
開講 年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	6単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択 必修	必修	時間数	270時間					
授業概要	実習Ⅱは専門強化実習で、実習1で学んだ小規模離島で活躍する島嶼保健看護職の特徴を基盤に、プライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストの役割を明確にし、小児から老年までの専門看護師等から小規模離島で活用できるCareとCureを融合した高度な看護実践の技能を修得する。さらに、小規模離島で解決できない困難事例の照会のためにアセスメント能力を強化し、小規模離島と沖縄本島とを結ぶ各専門看護師・医療職間との連携・調整・相談活動の方略を学ぶ。							
到達目標	1. 小規模離島で活躍する島嶼保健看護のプライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストとしての役割と高度な看護実践の技能について述べることができる。 2. 照会のためのアセスメント能力の強化、島嶼保健看護に特徴的なCareとCureを融合した高度な看護実践、海を越えた島外の専門職間の連携・調整・相談役割を意識して実践できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
	専門強化実習 1. 実習概要と実習場 1) 小規模離島には存在しない、沖縄本島に存在する各専門看護師等から小規模離島で活用できる小児から老年までの各専門看護師のCareとCureを融合したミニマムエッセンスを学び、島嶼保健看護師としてのプライマリー・ヘルス・ケアのスペシャリストの役割について学ぶ。よって、実習場は沖縄本島に在住している各専門看護師等が在職している沖縄本島の医療現場とする。小児、母性、成人、老年、在宅、精神の看護・医療専門職が存在するクリニックや病院など。 2) さらに、小規模離島で難渋する困難事例を島外へ照会するためのアセスメント能力の強化や島外の専門職との連携・調整・相談活動を学ぶ。 2. 実習方法 1) クリニックや後方支援病院等で展開されるコモンディジェーズを基盤とした様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者への看護援助、健康予防・増進活動など、実習指導者(各専門看護師、医師、多職種など)のもとで実践する。 ① 各専門看護師のもとで、小規模離島から沖縄本島に入院あるいは通院している患者の事例を受け持ち、CareとCureを融合した高度な看護実践を展開する。小児、母性、成人、老年、在宅、精神に関する事例(1事例以上)を受け持ち看護援助を展開する。 ② 本島に在住する医療・保健・福祉の多職種との連携・調整・相談活動に関する小規模離島の実践事例を展開する。 2) 実習記録として、「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録する。 3) 本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する 4) カンファレンスを開催し助言を得る。 ① 実習カンファレンス 各専門看護師、医師、多職種、実習指導教員等による中間・最終カンファレン						学内教員 学外実習指導者(看護師、保健師、医師等)	

ス
 ②全体カンファレンス
 中間カンファレンス(大学内の各領域の教員)
 最終カンファレンス(看護部長、島ナース、施設の実習指導者など)

実習の概要: 下記の実習期間については、院生の背景・希望によって異なる。

領域	場所	概要
母性	病院	妊娠および出産の経過における母体と児のアセスメントとケア、保健指導について、助産師から指導を受け、実践する。
小児	クリニック	急性胃腸炎や喘息などのコモンディーズに関する臨床推論、および、展開予測について、また、予防接種の保健指導について、医師・小児の専門看護職から指導を受け、実践する。
老年	老人介護施設および訪問看護ステーション	認知症など、高齢者に一般的にみられる疾患に対する看護援助、および、高齢者の生活ニーズに沿ったアセスメントと看護援助について、看護師および医師の指導を受けて、実践する。
急性期	病院	心疾患、脳血管疾患、ショック・外傷における診断、治療、フォローアップのアセスメントと看護援助について、専門看護師、認定看護師の指導を受け、実践する。
慢性期	病院	高血圧、糖尿病、COPD、腎・肝疾患の予防、および、診断、治療、フォローアップのアセスメントと看護援助について、専門看護師の指導を受け、実践する。また、創傷ケアの実際について、認定看護師から指導を受け、実践する。
リハビリテーション	病院	嚥下機能および運動機能の保持増進の援助の実際について、理学療法士や作業療法士、言語療法士の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな要素を学ぶ。
がん	病院	抗がん剤治療と副作用症状の緩和の実際について専門看護師の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな看護の要素を学ぶ。また、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。
緩和ケア 終末期	病院	緩和ケアと終末期医療の実際について専門看護師の実践から学び、小規模離島の診療所で活用できそうな看護の要素を学ぶ。また、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。
精神	病院	精神的健康問題をもつ対象の臨床推論、および、展開予測、看護ケアについて、専門看護師の指導を受け、実践する。また、精神的健康問題をもつ対象への島嶼地域における対応について、看護の要素を学ぶとともに、専門看護師との連携・調整・相談関係を築く。

テキスト 関連資料、文献などを適宜配付する。

参考文献 必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。

成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。
備考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。

下記は実習施設と実習指導者のリスト:学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種(氏名)
① 医療法人がじまるの会糸数病院	看護師長(具志春美)
② 沖縄県立宮古病院	病院長 副院長 看護師長(下地千里)
③ 沖縄県立八重山病院	病院長 看護部長 看護師長(宮良久美江)
④ 医療法人わらべの会わんぱくクリニック	院長
⑤ 社会医療法人仁愛会浦添総合病院	看護部長兼急性・重症患者看護専門看護師(伊藤智美) 糖尿病看護認定看護師(前川スミ子)
⑥ 医療法人沖縄徳洲会グループホームひめゆり	所長
⑦ 医療法人 HSR 名嘉村クリニック 在宅ケアセンターおもろまち訪問看護ステーション	老人看護専門看護師
⑧ 沖縄県立宮古病院家庭医療センター	センター長
⑨ 医療法人天仁会天久台病院	精神看護専門看護師(上原勝子)
⑩ 那覇市立病院	がん看護専門看護師(吉澤龍太)
⑪ アドベンチストメディカルセンター	がん看護専門看護師(濱田香純)
⑫ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	副院長 皮膚・排泄ケア認定看護師(砂川悦子) 島ナース(下地和枝)
⑬ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	リハビリテーション室長
⑭ 地域医療振興協会 与那国町診療所	管理者兼所長

科目 コード	51954	授業 科目	実践島嶼保健看護実習Ⅲ Practical Island Health Nursing PracticumⅢ		担当 教員	○宮里智子、他	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	必修	時間数	90時間				
授業概要	小規模離島の診療所を受診する様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者に対し、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、島嶼保健看護師として、専門職や非専門職(住民など)と協働連携し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発技法を修得する。						
到達目標	1. 小規模離島の健康課題の解決に向け、保健医療福祉の専門職及び住民等の非専門職との協働連携ができる。 2. 小規模離島の診療所を受診する様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者に対し、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 3. 実践島嶼保健看護実習ⅠおよびⅡで選択した小規模離島以外の離島を選択し、保健・医療・福祉の現状を比較し各離島の共通性と相違性について説明できる。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
	課題解決実習 1.実習内容:実習の場は、小規模離島における診療所など 1)小規模離島の課題解決に向けて必要な保健・医療・福祉の専門職及び住民等の非専門職と協働による看護援助が展開できるように相談・調整を行う。 2)診療所を受診する様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者の困難事例や実践課題に関して、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 3)これまで実践してきた小規模離島以外の離島を1つ選択し共通性と相違性から小規模離島特有の課題を明確にする。 2.実習方法: 1)小規模離島における保健看護上の困難事例や実践課題(1事例以上)に関して、診療所看護師または医師、地区担当保健師との情報共有を徹底し、相談・調整を行い、実践する。 2)看護援助として、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画の立案、実践、評価を、課題解決するまで繰り返す。実習期間中に課題解決できない場合は、看護師または保健師に引き継ぐ。 3)実習記録として、「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録していく。 4)比較する他の小離島は以下の離島例から一つの離島を選択する。 例:座間味島・渡嘉敷島・阿嘉島 栗国島・渡名喜島 北大東島・南大東島 竹富町離島 与那国島 国外小規模離島(グアム、サイパン、テニアン等) 5)カンファレンスを開催し助言を得る。 ①実習カンファレンス 診療所看護師、診療所医師、保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス 中間カンファレンス(大学内の各領域の教員) 最終カンファレンス(看護部長、島ナース、施設の実習指導者など)					学内教員 学外実習指導者(看護師、保健師、医師等)	

	6)本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する。	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度や内容、実習指導者の情報、実習計画書、ケースレポート、課題レポートに基づき、総合的に評価する。	
備考	学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。	

下記は実習施設と実習指導者のリスト:学生によって実習施設が異なる。

施設名	職種(氏名)
① 南部医療センター・こども医療センター附属渡嘉敷診療所	診療所長 副院長 島ナース
② 南部医療センター・こども医療センター附属栗国診療所	診療所長 副院長 島ナース
③ 南部医療センター・こども医療センター附属座間味診療所	診療所長 副院長 島ナース
④ 沖縄県立宮古病院附属多良間診療所	病院長 診療所長 副院長 看護師長(下地千里)
⑤ 沖縄県立八重山病院附属波照間診療所	病院長 診療所長 看護部長 看護師長(宮良久美江) 看護師(美底恭子)
⑥ 沖縄県立八重山病院附属大原診療所	病院長 診療所長 看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑦ 沖縄県立八重山病院附属小浜診療所	病院長 看護部長 看護師長(宮良久美江)
⑧ 地域医療振興協会 与那国町診療所	管理者兼所長

科目コード	51951	授業科目	実践島嶼保健看護課題研究 Practical Islands Nursing and Health Problem Study			担当教員	◎神里みどり、◎大湾明美、◎川崎道子、宮里智子、赤嶺伊都子	
開講年次	博士前期課程 2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	島嶼地域に関連した現場で直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習 I (4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。						神里みどり 他	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習 II (2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習 I (2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							

2年次	<4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。	
3年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験* <4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出* 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出*	
		※()内は前学期修了予定の日程
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験(口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験(口頭又は筆答による)を行う。	
備考	注) *印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。なお、担当教員が変更になる場合がある。	